

# 臨地実習における 教育上の調整が必要な 医療系学生への支援を考える

第一部 2019年10月12日（土）13：00－16：30  
第二部 10月13日（日） 9：00－12：30  
場所 国際医療福祉大学 成田キャンパス  
（京成本線「公津の杜」駅前）

申込先  
9/29締切

医学教育共同利用拠点

岐阜大学医学教育開発研究センター

<https://www1.gifu-u.ac.jp/~medc/>



MEDC

検索



医療系大学には、障がい等を有する等の学生の状況に応じた「教育上の合理的配慮あるいは調整（教育上の調整）」のもとに学生に学修機会を保障し、多様な能力の発揮を支援することが求められています。

看護学教育における臨地実習では、実習施設の看護の質、他の学生の教育の質保証等も考慮して教育上の調整を行う必要があり、こうした調整に困難を感じる看護系教員・看護職者も多い状況です。

第一部（10/12）では、企画者らが開発したFD・SDプログラムを紹介し、対人関係が難しい学生等の事例に関するグループワークなどを体験していただきます。

第二部（10/13）では、教育上の調整の基盤となるテクニカルスタンダードや学生・医療系教職員への組織的支援のあり方について、シンポジストの川上ちひろ先生（岐阜大学）、佐々木銀河先生（筑波大学）とともに考えたいと思います。

今回は看護学教育での実践を紹介しますが、どの医療系養成教職員の皆さまもご参加いただけます。

## <企画>

吉本照子(千葉大学) 飯岡由紀子(埼玉県立大学) 遠藤和子(山形県立保健医療大学)  
小川純子(淑徳大学) 松岡千代(佛教大学)